

令和4年度事業報告書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

第1 職業能力評価に係る基盤の整備・充実

事 項	実 施 状 況
1 良質な技能検定試験問題等の作成と技能検定制度の普及促進	
(1) 技能検定試験問題等の作成	検定職種（作業）ごとに中央技能検定委員会を開催し、現場における技術・技能の動向等を踏まえるとともに、都道府県職業能力開発協会（以下「都道府県協会」という。）の実施経費低減並びに受検者増を目指した良質な試験問題及びその実施要領を作成した。 また、外国人に対する技能実習制度に係る職種（作業）について、試験問題等の作成を行った。 ア 等級別作業数 648 作業〔669 作業〕 イ 技能検定受検申請者総数 238,873 名〔263,160 名〕 注〔 〕内は令和3年度実績
(2) 技能検定制度の普及・促進	1・2級非接触除去加工（レーザ加工作業）について、令和5年度からの新規実施に向けて、試験問題の作成審議を行った。また、広報用資料を作成し、業界団体と連携して受検勧奨を行った。
(3) 技能検定試験業務の指導	ア 都道府県、都道府県協会、都道府県技能検定委員に対し、課題内容、採点基準、試験用機材・設備、試験実施に係る留意事項の説明等を行うことより、全国的水準の統一を図ることを目的とした技能検定実技試験水準調整会議を開催し、技能検定実技試験実施についての技術的な業務指導を行った。 〔前期〕 5月12日 1・2級 婦人子供服製造（婦人子供注文服製作作業） 1・2級 産業車両整備（産業車両整備作業）

事 項	実 施 状 況										
	5月13日 1・2級 塗装（建築塗装作業） 1級 フラワー装飾（フラワー装飾作業） [後期] 11月11日 1・2級 型枠施工（型枠工事作業） 1・2級 建築大工（大工工事作業） イ 「産業車両整備」、「パン製造」、「建築大工」、「造園」など約 20 職種の技能検定実技試験会場を訪問、視察し、都道府県技能検定委員等から技能検定試験の課題内容等について意見等を聴取した。										
(4) 各都道府県協会技能検定担当課長会議の開催	全国47都道府県協会の検定担当課長等へ向けて ・技能検定実施に係る国（厚労省）からの情報提供 ・全国の技能検定実施状況報告 ・技能検定実施に係る連絡事項 ・都道府県協会からの意見・要望への回答 などの情報を配信し、Webによる意見交換等を行った [前期] 試験実施期間（6月上旬～9月中旬）前の5月11日 [後期] 試験実施期間（12月上旬～2月中旬）前の11月10日										
(5) 技能士実態調査の実施	諸工業分野の業界団体に所属する事業所の人事・総務・労務・担当管理者を対象とした技能検定の活用状況・ニーズ等に係る調査を実施した。										
2 コンピュータサービス技能評価試験の普及推進											
(1) コンピュータサービス技能評価試験の実施等	ア コンピュータサービス技能評価試験の実施 <table> <tr> <td>(ア) 受験申請者総数</td> <td>32,722名 [33,392名]</td> </tr> <tr> <td>・ワープロ部門</td> <td>16,156名 [16,566名]</td> </tr> <tr> <td>・表計算部門</td> <td>16,161名 [16,424名]</td> </tr> <tr> <td>・情報セキュリティ部門</td> <td>405名 [402名]</td> </tr> <tr> <td>(イ) 合格者総数</td> <td>27,745名 [28,313名]</td> </tr> </table> イ コンピュータサービス技能評価試験の広報周知 CS試験認定施設の新規開拓、受験申請者数の維持・拡大に向け、次の広報周知を行った。 (ア) 公的職業訓練等での活用が可能な「テキスト&問題集」について、新規に情報セキュリティ部門の作成及び既刊部門の増刷 (イ) CS試験認定施設等へのポスター・パンフレットの配付	(ア) 受験申請者総数	32,722名 [33,392名]	・ワープロ部門	16,156名 [16,566名]	・表計算部門	16,161名 [16,424名]	・情報セキュリティ部門	405名 [402名]	(イ) 合格者総数	27,745名 [28,313名]
(ア) 受験申請者総数	32,722名 [33,392名]										
・ワープロ部門	16,156名 [16,566名]										
・表計算部門	16,161名 [16,424名]										
・情報セキュリティ部門	405名 [402名]										
(イ) 合格者総数	27,745名 [28,313名]										

事 項	実 施 状 況
3 ビジネス・キャリア 検定試験の普及拡大 (1) ビジネス・キャリア 検定試験の実施 (2) 効果的なプロモーションの推進	(ウ) ホームページ上においてCS試験認定施設から情報収集したCS試験活用事例・合格者の声の紹介 42都道府県協会の協力を得て、全国47都道府県において、8分野44試験区分（1級・2級・3級・BASIC級）の試験を実施した。 受験申請者数は、前年度の実績を上回り、過去最高となった（対前年度比2,043名・6%増・目標達成率99.7%）。 (ア) 受験申請者数 35,893名〔33,850名〕 (イ) 合格者数 17,523名〔14,849名〕 (ウ) 実施試験区分 8分野44試験区分〔8分野44試験区分〕 (1級) 人事・人材開発・労務管理、経理・財務管理、営業・マーケティング、生産管理、企業法務、ロジスティクス、経営情報システム、経営戦略 (2級) 人事・人材開発、労務管理、経理、財務管理(財務管理・管理会計)、営業、マーケティング、生産管理プランニング(製品企画・設計管理)、生産管理プランニング(生産システム・生産計画〔加工型・組立型〕)、生産管理プランニング(生産システム・生産計画〔プロセス型〕)、生産管理オペレーション(作業・工程・設備管理)、生産管理オペレーション(購買・物流・在庫管理)、企業法務(組織法務)、企業法務(取引法務)、総務、ロジスティクス管理、ロジスティクス・オペレーション、経営情報システム(情報化企画)、経営情報システム(情報化活用)、経営戦略 (3級) 人事・人材開発、労務管理、経理(簿記・財務諸表)、経理(原価計算)、財務管理、営業、マーケティング、生産管理プランニング、生産管理オペレーション、企業法務、総務、ロジスティクス管理、ロジスティクス・オペレーション、経営情報システム、経営戦略 (BASIC級) 生産管理、ロジスティクス ア 顧客情報の収集・分析等 受験申請者・企業への受験申請時アンケート及びWEB広告データの収集・分析を継続するとともに、一括申請企業における活用状況等に関するアンケートを実施し、企業活用事例の収集とホームページ等での公開を行った。

事 項	実 施 状 況
(3) 事業基盤の強化	イ ターゲットを明確にしたプロモーション 厚生労働省(ロジスティクス分野：経済産業省/国土交通省)の後援名義を活用しながら、分野別リーフレット、企業向けリーフレットといったターゲットに応じた広報媒体の作成・配付やWEB広告を実施するとともに、ホームページやSNS (Youtube・Facebook) を活用したプロモーションを行った。 また、都道府県協会の協力を得ながら、技能検定活用企業等による一括申請の新規開拓を推進した。 ア 試験体系の整備等 試験問題作成において、Web会議システムを有効活用することで委員会審議をオンライン化し、運営の効率化を図った。 イ 学習支援の充実 試験基準と対応した標準テキストについては、社会経済や技術革新の動向、諸制度等の見直しが反映されたものとなるよう、概ね5年サイクルで改訂しており、学習環境の一層の充実を図るため、2・3級労務管理の標準テキストを発刊し、2級経営情報システムと2・3級人事・人材開発の過去問題解説集を発刊した。 ウ 試験実施体制の整備 都道府県協会等の関係機関と連携し、全都道府県で試験を実施した。 また、試験実施における新型コロナウイルス感染症対策のため、ガイドライン、業務マニュアル等を改定するとともに、大都市圏において会場を複数設置し、リスク分散を図った。

第2 職業生活の全期間を通じたキャリア形成の支援

事 項	実 施 状 況
1 企業におけるキャリア形成の促進	
(1) キャリア形成支援ツールの活用促進及びセミナー・研修の効果的な実施	企業が行う従業員のキャリア形成支援を推進するために、企業の人事・人材育成担当者を対象としたキャリア形成支援セミナーを開催するとともに中央協会が開発したキャリア形成支援ツール (CADS&CADI) の活用促進を図るための説明会を開催した。 また、役職定年や定年再雇用のシニア世代になっても生き生き働き続けることを目的に、40代半ば以降の従業員を対象として行う研修 (キャリア・シフトチェンジのためのワークショップ) を実施できるインスト

事 項	実 施 状 況
	ラクター養成研修を実施した。 ア キャリア形成支援セミナー（1回） （ア）開催日：令和4年10月25日 （イ）場 所：オンライン配信 （ウ）受講者：15名 イ CADS&CADI オンライン活用セミナー（1回） （ア）開催日：令和4年10月31日 （イ）場 所：オンライン配信 （ウ）受講者：50名 ウ キャリア・シフトチェンジのためのワークショップインストラクター養成研修（全5回） 第1回開催 （ア）開催日：令和4年9月8日、9月9日 （イ）場 所：飯田橋レインボービル（東京都） （ウ）受講者：12名 第2回開催 （ア）開催日：令和4年10月13日、14日 （イ）場 所：AP大阪梅田東（大阪府） （ウ）受講者：15名 第3回開催 （ア）開催日：令和4年12月8日、9日 （イ）場 所：飯田橋レインボービル（東京都） （ウ）受講者：21名 第4回開催 （ア）開催日：令和5年1月26日、27日 （イ）場 所：飯田橋レインボービル（東京都） （ウ）受講者：9名 第5回開催 （ア）開催日：令和5年2月16日、17日 （イ）場 所：飯田橋レインボービル（東京都） （ウ）受講者：10名

事 項	実 施 状 況
(2) 企業からの要望に基づく受託研修の実施	従業員のキャリア形成等を目的とした研修の実施依頼に対して、中央協会が開発したキャリア形成支援ツール及び研修プログラムによる受託研修を実施した。 (7) 受託企業数：2社 (4) 実施回数：2回 (9) 受講人数：44名
2 労働者の主体的な職業能力開発に対する環境整備	労働者の自発的な職業能力開発の取組に対する支援及び環境整備として、「教育訓練給付制度講座検索システム」に専門実践教育訓練指定講座、特定一般教育訓練指定講座及び一般教育訓練指定講座に関する情報を提供した。 また、当該講座指定を希望する教育訓練施設の申請に関する調査を行うとともに、当該教育訓練施設からの相談対応を行った。 (参考) 指定講座の概要 ○ 専門実践教育訓練 指定講座数：2,671講座（通学制：2,138件、通信制：533件） 業務独占・名称独占資格の養成課程：1,649講座 専門学校の職業実践専門課程 ・キャリア形成促進プログラム：672講座 専門職学位課程：91講座 大学等の職業実践力育成プログラム：157講座 一定レベル以上の情報通信技術養成課程：2講座 第四次産業革命スキル習得講座：100講座 教育訓練施設数：1,346施設 ○ 特定一般教育訓練 指定講座数：517講座（通学制：337件、通信制：180件） 教育訓練施設数：178施設 ○ 一般教育訓練 指定講座数：11,431講座（通学制：9,102件、通信制2,329件） 教育訓練施設数：1,634施設 (出所：厚生労働省（令和4年10月1日現在）)

第3 ものづくり日本を支える技能の継承・発展及び振興

事 項	実 施 状 況
1 若年者ものづくり競技大会	
(1) 技能競技大会の実施	第17回若年者ものづくり競技大会を、厚生労働省との共催により広島県立広島産業会館他、全5会場で以下のとおり開催した。

事 項	実 施 状 況
	なお、本大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、事前来場登録や入場制限などの適切な措置を講じて開催した。 ア 開催日程：令和4年7月27日（水）～7月28日（木） ※ ・ 7月27日（水） 競技会場の下見、工具展開、職種別の開会式 ※ ・ 7月28日（木） 競技実施 ※ 〔※ 旋盤職種は7月26日（火）から7月28日（木）、フライス盤職種は7月24日（日）から7月28日（木）の間〕 全競技終了後、受賞者選考のための技術委員会を開催し入賞者を決定した。 ・ 7月29日（金） ホームページにて、入賞者を発表した。 今大会の入賞者は、金賞 17 人、銀賞 24 人、銅賞 26 人、敢闘賞 52 人であった。金賞受賞者に、厚生労働大臣賞として楯を授与した。 イ 開催場所：広島県立広島産業会館、広島市中小企業会館、マツダ（株）トレーニングセンター鯛尾、ポリテクセンター広島、ポリテクセンター中部 5会場 ウ 競技職種：15 職種を実施 メカトロニクス、機械製図（CAD）、旋盤、フライス盤、電子回路組立て、電気工事、木材加工、建築大工、自動車整備、IT ネットワークシステム管理、ウェブデザイン、業務用 IT ソフトウェア・ソリューションズ、グラフィックデザイン、ロボットソフト組込み、造園 エ 参加選手：340 人 オ 来 場 者：3,538 人 （その他、ライブ配信のアクセス数：16,658PV） カ 大会要綱：技術委員会、競技委員会及び運営委員会の各設置要綱を作成した。 キ 大会運営：競技委員会や技術委員会により、競技会場の検討、課題の作成、入賞者の決定等を行った。また、入賞者に対するメダル等を作成し配布した。 ク 後 援：文部科学省、経済産業省、国土交通省、広島県、NHK、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構、公

事 項	実 施 状 況
(2) ものづくり技能に関する啓発活動等	益財団法人産業教育振興中央会、職業能力開発総合大学校、一般社団法人全国技能士会連合会、公益社団法人全国工業高等学校長協会、一般社団法人全国高等学校PTA連合会、全国専修学校各種学校総連合会、全国中小企業団体中央会、全国農業高等学校長協会、都道府県職業能力開発協会、株式会社日刊工業新聞社、一般社団法人日本経済団体連合会、日本商工会議所、日本労働組合総連合会 競技内容の理解や本大会への来場促進を図るため、以下のとおり広報等を行った。 ア ガイドブック（参加選手名簿、競技課題等を掲載）の作成・配付 (ア) 作成部数：1,400部 (イ) 配付先：競技委員、選手、来場者等へガイドブックを配付した。 イ 技能五輪全国大会成績優秀者等によるデモンストレーションの実施 (ア) 実施日：令和4年7月28日（木） (イ) 実施場所：広島県立広島産業会館、広島市中小企業会館、ポリテクセンター広島、ポリテクセンター中部 (ウ) 実施職種：電子回路組立て、電気工事、旋盤及びフライス盤 ウ ホームページを活用した情報の提供 (ア) 掲載内容：競技課題のほか、直接会場に来場できない方のために、競技スケジュールや参加者名簿を掲載し、本大会を紹介した。 (イ) 掲載先：中央職業能力開発協会のホームページ (ウ) アクセス数：280,248件 （令和4年4月1日～令和5年3月31日現在）
(3) アンケートの実施	来場者、選手及び選手所属機関等を対象に、今後の大会運営の参考等とするため、以下のとおりアンケートを行った。 ア 内 容：性別、年齢層、本大会の認識状況、参加職種、組織の種類、人材養成への貢献度、次回大会への参加意向 等 イ 回収状況：来場者分 658 件、参加選手分 104 件、選手所属機関 133 件のアンケートを回収した。

事 項	実 施 状 況
(4) その他 2 技能五輪全国大会 (1) 技能競技大会の実施	ウ 結果概要：一般来場者（若年層）に対するアンケートにおいて、 「このような技能競技大会への参加、技能検定の受検を 目指したいと思うようになった」と回答した割合が 96.6%であった。 大会終了後、競技結果（順位、得点）についての情報提供窓口を設置 し、情報提供を行った。 第60回技能五輪全国大会を厚生労働省との共催により、幕張メッセ 他、全13会場で以下のとおり開催した。 なお、本大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、 事前来場登録や入場制限などの適切な措置を講じて開催した。 ア 開催日程：令和4年11月4日（金）～7日（月） ・11月4日（金） 競技会場の下見、工具展開 ・11月5日（土） 競技実施〔一部職種は先行して実施〕 ・11月6日（日） 全競技が終了。その後、受賞者選考のための技術 委員会を開催し入賞者を決定した。 ・11月7日（月） 千葉ポートアリーナでの閉会式において、大会の 入賞者（金賞43人、銀賞70人、銅賞92人、敢闘賞 168人）を発表した。また、閉会式の様子はインタ ーネットにてライブ配信された。 なお、入賞者には、メダルと賞状を授与し、金賞受 賞者には厚生労働大臣賞として、賞状と記念の楯を 授与した。また、最優秀選手団には厚生労働大臣賞 として、優秀選手団には人材開発統括官賞、中央職 業能力開発協会会長賞または全国技能士会連合会会 長賞として賞状と記念の楯を授与した。 イ 開催場所：幕張メッセ、日立 Astemo（株）技術技能教育センタ、ポ リテクセンター関西、（株）エツキ、長野県松本技術専 門校ふれあい技能センター、高度ポリテクセンター、ポ リテクセンター千葉、学校法人啓倫学園国際製菓専門学 校、学校法人誠心学園東京誠心調理師専門学校、木場公 園、学校法人後藤学園武蔵野調理師専門学校、マツダ （株）本社工場 1 車両製造部技能訓練場、ちば仕事プラ ザ 13 会場

事 項	実 施 状 況
	ウ 競技職種：41 職種を実施 機械組立て、プラスチック金型、精密機器組立て、メカトロニクス、機械製図、旋盤、フライス盤、構造物鉄工、電気溶接、試作モデル製作、タイル張り、自動車板金、曲げ板金、配管、電子機器組立て、電気、工場電気設備、左官、家具、建具、建築大工、貴金属装身具、フラワー装飾、美容、理容、洋裁、洋菓子製造、自動車工、西洋料理、造園、和裁、日本料理、レストランサービス、車体塗装、冷凍空調技術、IT ネットワークシステム管理、情報ネットワーク施工、ウェブデザイン、とび、時計修理、移動式ロボット なお、石工の職種については、競技実施に必要な参加選手数を満たさなかったため、中止。 エ 参加選手：1,014 人 オ 来 場 者：17,180 人 (その他、ライブ配信のアクセス数：86,956PV) カ 大会要綱：技術委員会、競技委員会及び運営委員会の各設置要綱を作成した。 キ 大会運営：運営委員会・競技委員会・技術委員会により、競技会場の検討、課題の作成、入賞者の決定等を行った。 ク 後 援：文部科学省、経済産業省、国土交通省、都道府県、都道府県職業能力開発協会、NHK、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構、職業能力開発総合大学校、一般社団法人全国技能士会連合会、全国専修学校各種学校総連合会、全国中小企業団体中央会、全国農業高等学校長協会、株式会社日刊工業新聞社、一般社団法人日本経済団体連合会、一般社団法人日本産業訓練協会、日本商工会議所、日本労働組合総連合会、公益社団法人全国工業高等学校長協会、東京メトロポリタンテレビジョン株式会社
(2) 第60回技能五輪全国大会の選考	工業高校生等に対して、技能五輪全国大会への出場機会を与えるとともに、出場レベルの技能を有している者を選考するため、以下のとおり選考を行った。

事 項	実 施 状 況
	ア 実施職種、開催日及び開催場所 「メカトロニクス」、「自動車整備」、「ITネットワークシステム管理」、「ウェブデザイン」、「ロボットソフト組込み」職種 (ア) 開催日：令和4年7月27日（水）～7月28日（木） ※「ITネットワークシステム管理」は令和4年7月25日（月）～7月26日（火） (イ) 開催場所：広島県立広島産業会館、マツダ（株）トレーニングセンター鯛尾 イ 結果 上記アの各職種について、上位選手3名（「メカトロニクス」、「ロボットソフト組込み」職種は上位選手6名3組）が第60回技能五輪全国大会への出場権を得た。
(3) ものづくり技能に関する啓発活動等	ホームページを通じて、以下のとおり広報等を行った。
	ア ホームページを活用した情報の提供 (ア) 掲載内容：競技課題のほか、直接会場に来場できない方のために、競技スケジュールや参加者名簿を掲載し、本大会を紹介した。 (イ) 掲載先：中央職業能力開発協会のホームページ (ウ) アクセス数：823,248件 (令和4年4月1日～令和5年3月31日現在)
(4) アンケートの実施	来場者、選手及び選手所属機関等を対象に、今後の大会運営の参考等とするため、以下のとおりアンケートを行った。 ア 内 容：性別、年齢層、本大会の認識状況、参加職種、組織の種類、人材養成への貢献度、次回大会への参加意向 等 イ 回収状況：来場者分1,652件、参加選手分367件、選手所属機関272件のアンケートを回収した。 ウ 結果概要：一般来場者（若年層）に対するアンケートにおいて、「将来、このような技能競技大会への参加、技能検定の受験を目指したいと思うようになった」と回答した割合が100.0%であった。また、「本大会を見て、将来のキャリア形成に向けた技術・技能の向上など、自身の職業能

事 項	実 施 状 況
(5) その他	力の習得に意欲を持った」と回答した割合が 87.0%であった。 ア 大会終了後、競技結果（順位、得点）についての情報提供窓口を設置し、情報提供を行った。 イ 令和4年度各種技能競技大会等の推進事業仕様書第3の2（2）⑨イ関係について、国際大会で導入されている当該システムの全国大会への導入に向けた計画の策定を行った。また、同仕様書第3の2（2）⑨ウ関係について、産業用ロボット職種などの全国大会への導入について、関係者等へのヒアリングを行った。
3 二次予選会の実施	
(1) 予選会の運営	旋盤職種、電子機器組立て職種及びメカトロニクス職種については、以下のとおり二次予選会を行い、技能五輪全国大会への参加人数の調整を行った。 なお、本予選会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、適切な措置を講じて開催した。 ア 旋盤職種 （ア）開 催 日：令和4年7月30日（土）、7月31日（日） （イ）開催場所：日立工業専修学校、ポリテクセンター中部、ポリテクセンター関西 （ウ）参加選手：69人 イ 電子機器組立て職種 （ア）開 催 日：令和4年8月18日（木） （イ）開催場所：MEETING SPACE AP西新宿 （ウ）参加選手：39人 ウ メカトロニクス職種 （ア）開 催 日：令和4年8月22日（月） （イ）開催場所：MEETING SPACE AP西新宿 （ウ）参加選手：36人
(2) ものづくり技能に関する啓発活動等	ホームページを通じて、以下のとおり広報等を行った。 ア ホームページを活用した情報の提供

事 項	実 施 状 況						
(3) その他	(7) 掲載内容：競技課題のほか、直接会場に来場できない方のために、競技スケジュールや参加者名簿を掲載し、本予選会を紹介した。 (4) 掲 載 先：中央職業能力開発協会のホームページ 予選会終了後、競技結果（順位、得点）についての情報提供窓口を設置し、情報提供を行った。						
4 京都大会の開催	2022 年 10 月に中国・上海で開催される予定であった技能五輪国際大会の中止に伴い、代替措置として、日本を含む 15 カ国にて第 46 回技能五輪国際大会（特別開催）が開催されることとなり、厚生労働省及び WorldSkills International との共催により、以下のとおり開催した。 なお、本大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、適切な措置を講じて開催した。 ア 開催日程：令和 4 年 10 月 12 日（水）～19 日（水） ・ 10 月 12 日（水） 競技準備。また、平安神宮会館において開会式及び歓迎レセプションを実施。 ・ 10 月 13 日（木）～14 日（金） 競技準備 ・ 10 月 15 日（土）～18 日（火） 競技実施 ・ 10 月 19 日（水） 京都教育文化センターにおいて閉会式を SODOH 東山において、さよならパーティーを実施。 イ 開催場所：京都市勧業館みやこめっせ ウ 競技職種：3 職種を実施 情報ネットワーク施工、光電子技術、再生可能エネルギー エ 参加選手：21 人（14 カ国） <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>情報ネットワーク施工</td><td>12 人</td></tr> <tr> <td>光電子技術</td><td>6 人</td></tr> <tr> <td>再生可能エネルギー</td><td>3 人</td></tr> </table> オ 後 援：京都府、京都市	情報ネットワーク施工	12 人	光電子技術	6 人	再生可能エネルギー	3 人
情報ネットワーク施工	12 人						
光電子技術	6 人						
再生可能エネルギー	3 人						
5 特別大会への派遣等	2022 年 10 月に中国・上海で開催される予定であった技能五輪国際大会の中止に伴い、代替措置として、日本を含む 15 カ国で競技会を開催する特別大会への日本選手団の派遣に向けて、次の事項を実施した。						

事 項	実 施 状 況
(1) 特別大会への派遣	ア 通訳研修 ・実施時期：令和4年7月～10月 ・実施場所：選手の訓練場所等 ・内 容：競技課題の内容、テクニカルターム、インフラリスト等 イ 日本選手団の派遣 ・日本選手団：選手59人（51職種）、エキスパート51名、エキスパート付通訳50名のほか、公式代表・技術代表・技術代表補佐等 ・派遣期間：令和4年9月7日（水）～11月26日（土） ・派遣先：ドイツ、スイス、韓国、日本、アメリカ、ルクセンブルグ、カナダ、フランス、フィンランド、エストニア、イギリス、デンマーク、オーストリア 13カ国 なお、日本が参加しない職種が実施されたスウェーデン及びイタリアへは派遣していない。 ・結 果： - 金メダル 8 職種（産業機械、情報ネットワーク施工、メカトロニクス、業務用ITソフトウェア・ソリューションズ、溶接、自動車板金、ITネットワークシステム管理、再生可能エネルギー） - 銀メダル 5 職種（製造チームチャレンジ、CNC旋盤、造園、プラスチック金型、試作モデル製作） - 銅メダル 5 職種（CNCフライス盤、移動式ロボット、ビューティーセラピー、水技術、光電子技術）
(2) 選手等の士気高揚等に係る取組	グラフィックデザイン職種日本代表選手がデザインした選手団の統一的なユニフォーム、ブルゾン、ポロシャツを作成するとともに、日本国旗の手旗などの応援グッズを日本人関係者に配布し、日本人選手の士気高揚を図った。また、大会終了後には、日本代表選手を招集し、大会での経験交流を行うと共に、大会での健闘を称えるための競技結果報告会を開催した。
6 国際大会に向けた選手等の競技力強化	
(1) 技能五輪国際大会選手強化委員会の設置	令和3年度技能五輪国際大会選手強化委員会での検討事項を引き継ぎ、選手の競技力強化策等について検討を行った。 ・実施時期：令和4年6月7日（火）、12月13日（火）、令和5年3月30日（木） 3回

事 項	実 施 状 況
(2) 職種別分科会等の設置	・ 委 員：ワールドスキルズ日本技術代表、国際大会に豊富な知見を有する学識経験者、国際大会に選手を出場させている企業又は団体に所属する者等 ア 職種別分科会 ・ 実施時期：令和4年4月～令和5年3月 職種ごとに実施 ・ 委 員：カザン大会のエキスパート・選手、特別大会のエキスパート、日本代表選手所属企業・業界団体の指導者等 イ 職種別分科会長会議 ・ 実施時期：令和5年2月24日（金） オンライン開催 1回 ・ 委 員：各職種分科会長等 ウ 職種横断的な戦略検討チーム ・ 実施時期：令和4年12月13日（火） 1回 ・ 委 員：学識者、企業群が複数の職種にわたり主体的に活動している製造系職種等の企業関係者、製造系以外の業界団体関係者等 エ 職種横断的な活動支援チーム ・ 実施時期：令和4年12月13日（火） 1回 ・ 委 員：建設系、アート・ファッション系及びサービス系職種の企業・学校・業界団体関係者等 オ 個別支援（コンサルティング） ・ 実施時期：令和4年9月13日（火） 1回 ・ 実施職種：西洋料理 1職種 ・ 委 員：強化委員、職種別分科会委員、特別大会エキスパート等 カ エキスパート総括検討会 ・ 実施時期：令和4年12月12日（月） 1回 ・ 委 員：特別大会のエキスパート
(3) 強化訓練への支援等	上記(2)アの職種別分科会において策定された強化訓練計画、エキスパート養成計画等に基づき、強化訓練等を実施した。また、強化訓練に係る各種研修や材料等の支援を行った。
(4) 地域技能競技大会等への派遣	新型コロナウイルス感染状況を注視しながら派遣検討を行ったが、状況が好転しなかったため、派遣を中止した。

事 項	実 施 状 況
(5) 他国と合同で実施する選手等の競技力強化の取組への支援	各分科会によりオンラインでの合同訓練の実施や競技への参加。また、海外での合同訓練の実施に対して、必要な支援を行い我が国選手の国際競技力強化を図った。 ・実施職種：情報ネットワーク施工、製造チームチャレンジ、メカトロニクス、機械製図CAD、CNCフライス盤、溶接、左官、自動車工、プラスチック金型、3Dデジタルゲームアート、クラウドコンピューティング、水技術、産業用ロボット 13職種
(6) CNC 2 職種の代表選考会実施に向けた準備	第 47 回国際大会「CNC 旋盤」及び「CNC フライス盤」職種の選手選抜に当たり、開催日時・場所等について調整し、厚生労働省の了解を得たうえで、実施予定会場の内諾を得た。 また、当選考会を円滑に運営するとともに経費節減のため、工作機メーカー等に対し協賛を要請し、内諾を得た。
(7) 全国大会における職種競技実施に向けた競技会への支援	競技大会実施のための要項を策定し、ビューティセラピー職種及びクラウドコンピューティング職種の業界団体等からの申請に基づき、材料や競技委員等の旅費等の支援を行った。
(8) 企業等間の連携の仲介等	企業等間の連携の仲介を職種別分科会、分科会長会議、職種横断的検討チーム、職種横断的戦略検討チーム等を通じて行うと共に、特別大会終了後に日本代表選手及びエキスパートから関係資料を収集し、参加報告書（大会記録誌）を作成して、関係者間で共有した。
7 国際大会の招致に関する検討等	2028 年国際大会誘致等に向けた取組について、厚生労働省及び開催地である愛知県とともに、スケジュール共有等のため 3 者会議を行った。
8 若年技能者人材育成支援等	
(1) ものづくりマイスターの認定・登録等	ア ものづくりマイスターの認定要件及び対象分野の検討 ものづくりマイスター新認定要件等検討委員会を開催し、従前のものづくりマイスター、IT マスター、テックマイスター 3 類型の統合方法、IT 分野の認定対象職種の拡充、新ものづくりマイスターの認定基準等について検討を行い、9 月に報告書を取りまとめた。 (※ものづくりマイスターを 1 類型に統合し、指導領域により「ものづくりマイスター」、「ものづくりマイスター（+DX）」及び「ものづくりマイスター（IT 部門）」の 3 区分とした。）

事 項	実 施 状 況
(2) ものづくりマイスターの活用に係る業務	イ ものづくりマイスター認定申請書の審査及び結果通知 新認定基準に基づいたものづくりマイスターの認定を行うため、年度下期に2回認定委員会を開催した。 地域技能振興コーナー（以下「コーナー」という。）を經由して提出されたものづくりマイスター、ものづくりマイスター（+DX）及びものづくりマイスター（IT部門）の認定申請書について審査を行い、延べ319名を認定し、認定者には、コーナーを通じて認定証を交付した。 ウ ものづくりマイスターの派遣による実技指導の実施 全国のコーナーにおいて、中小企業・団体や工業高校等からの要請を受けてものづくりマイスターを派遣し、実技指導を実施した。 派遣に当たっては、コーナーにおいて要請先の指導ニーズを的確に把握した上で効果的な指導となるよう、ものづくりマイスターの選定と実技指導内容について適切なコーディネートを実施した。 ものづくりマイスターの年間活動実績：77,326人日
	ア ものづくりマイスターを活用した人材育成についてのコンセンサス形成 (ア) ものづくりマイスターパンフレットの作成 新認定基準等の内容を盛り込んだ新ものづくりマイスター制度パンフレットを電子データで作成し、データベースに掲載するとともにコーナーに周知した。 (イ) 旧ITマスター及び旧テックマイスターの指導好事例集の作成 旧ITマスター及び旧テックマイスターが実技指導を行った10事例の取材内容をとりまとめ、3月10日にポータルサイト「技のとびら」へ掲載した。 イ ものづくりマイスターの実技指導支援 (ア) 指導技法講習の講師養成研修の実施 ものづくりマイスターに対する講師向け養成研修会を3月3日にオンライン開催した（29名参加）。 (イ) 事例発表・意見交換会の実施 ものづくりマイスターを対象とした事例発表・意見交換会を認定者数の多い職種から、以下の3職種についてオンラインで実施し、結果を好事例モデルとしてコーナーに提供した。 【鉄工職種】 8月22日 参加者12名（うち発表者2名） 【塗装職種】 8月24日 参加者11名（うち発表者1名）

事 項	実 施 状 況
	【電気機器組み立て職種】11月18日 参加者10名（うち発表者1名） (り) 3級技能検定実技試験課題を用いた人材育成マニュアルの動画コンテンツの作成 平成28、29年度作成の3級技能検定実技試験課題を用いた人材育成マニュアルのうち、製造業については「機械検査（機械検査作業）編」、建設業については「建築大工（大工工事作業）編」について、それぞれ動画作成委員会を設置して動画コンテンツを作成し、ポータルサイトにYouTubeへのリンク及びダウンロード用のデータを掲載した。
(3) 地域における技能振興事業	ア 「技能士の地位向上・魅力向上に資する認定制度の在り方検討会」の開催 令和4年度より新規認定受付を休止した「地域発！いいもの」応援事業及びグッドスキルマーク認定事業について、制度ユーザーに対する調査等を実施しながら、これまでの制度の評価や改善点の洗い出しを行い、技能士の地位向上・魅力向上につながるような新たな制度の在り方を検討し、検討結果を報告書としてとりまとめた。 イ 卓越した技能者（現代の名工）の表彰制度の紹介コンテンツの作成 令和4年度の被表彰者 138名の紹介コンテンツを作成し、ポータルサイトに掲載した。 ウ 「技能振興ポータルサイト（技のとびら）」を通じた情報提供 ものづくりマイスターパンフレットや指導好事例集等を閲覧者に広く見てもらえるよう、分かりやすい内容でコンテンツ化し掲載した。 また、閲覧者がいち早く知りたいと考えられる新着情報を速やかにお知らせ欄等に掲載するとともに、SNS（Facebook、Twitter）により定期的（週2回）に発信し、アクセスの向上を図った。 年間アクセス数：603,987 ページビュー

第4 広報出版・情報資料の提供

事 項	実 施 状 況
1 職業能力開発の推進のための広報活動	技能検定をはじめとする、能力開発・能力評価関連事業の周知・広報のため、次の活動を行った。 ア ホームページによる広報活動 ホームページ（https://www.javada.or.jp/）にて、技能検定、コンピュータサービス技能評価試験、ビジネス・キャリア検定をはじめ、技能五輪大会等の各競技大会、教育訓練給付制度、若年技能者人

事 項	実 施 状 況
	材育成支援、2024年技能五輪国際大会について広報を実施した。 年間アクセス数：8,557,496 ページビュー [8,864,082 ページビュー] イ メールマガジンの配信 技能検定をはじめとする、当協会の能力開発・能力評価関連事業の広報活動を行うため、「JAVADA情報マガジン」を配信した。 全国版（特別版を含む）：8回 [16回]、都道府県版：4回 [4回] ウ 月刊誌等の紙面に、当協会の事業の広告を掲載した。 月刊誌等：1回 [3回]
2 職業能力開発・評価に関する出版物の発行	次の図書を作成した。 ア 令和2・3年度 3級 技能検定試験問題集 (第1集) 1,100部 (第2集) 2,000部 イ コンピュータサービス技能評価試験 ワープロ部門 3級 テキスト&問題集 7,000部 ワープロ部門 2級 テキスト&問題集 4,500部 表計算部門 3級 テキスト&問題集 8,500部 表計算部門 2級 テキスト&問題集 5,500部 ワープロ部門練習問題集 Ver.4 ～Word / Windows編～ 「Word2016対応版」 1,000部 表計算部門練習問題集 Ver.4 ～Excel / Windows編～ 「Excel2016対応版」 1,000部 情報セキュリティ部門 テキスト&問題集 2,500部 ウ キャリア・シフトチェンジのためのワークショップ 「教材セット」 2,500部 「インストラクターズガイド」 100部

第5 会務等

事 項	実 施 状 況												
1 会員及び役員	ア 会員 令和5年3月31日現在における会員は、次のとおりである。 <table><tr><td>都道府県協会会員</td><td>47</td><td>(47)</td></tr><tr><td>団 体 会 員</td><td>224</td><td>(224)</td></tr><tr><td>企 業 会 員</td><td>60</td><td>(61)</td></tr><tr><td>計</td><td>331</td><td>(332)</td></tr></table> 注 () 内は、令和4年3月31日現在の会員数である。	都道府県協会会員	47	(47)	団 体 会 員	224	(224)	企 業 会 員	60	(61)	計	331	(332)
都道府県協会会員	47	(47)											
団 体 会 員	224	(224)											
企 業 会 員	60	(61)											
計	331	(332)											

事 項	実 施 状 況														
2 各種会議の開催	イ 役員 令和5年3月31日現在における役員は、次のとおりである。 <table><tr><td>会 長</td><td>1名</td></tr><tr><td>副 会 長</td><td>2名</td></tr><tr><td>理 事 長</td><td>1名</td></tr><tr><td>常務理事</td><td>1名</td></tr><tr><td>理 事</td><td>29名(副会長、常務理事を除く)</td></tr><tr><td>監 事</td><td>2名</td></tr><tr><td>計</td><td>36名</td></tr></table>	会 長	1名	副 会 長	2名	理 事 長	1名	常務理事	1名	理 事	29名(副会長、常務理事を除く)	監 事	2名	計	36名
	会 長	1名													
副 会 長	2名														
理 事 長	1名														
常務理事	1名														
理 事	29名(副会長、常務理事を除く)														
監 事	2名														
計	36名														
	ア 総会・理事会 (7) 第67回理事会 a 開 催 日：令和4年6月24日 b 場 所：ホテルグランドアーク半蔵門（東京都） c 出 席 者：理事会構成人員36名中34名（含委任状） d 議 長：会長 釜 和明 e 議事次第 (a)議決事項 第1号議案 定款の一部変更に関する件 第2号議案 令和3年度事業報告（案）に関する件 第3号議案 令和3年度収支決算（案）に関する件 第4号議案 役員の選任（案）に関する件 上記議案について審議し、原案のとおり了承された。 (b)報告事項 ・役員及び参議の選任並びに参与の委嘱について (イ) 第43回通常総会 a 開 催 日：令和4年6月24日 b 場 所：ホテルグランドアーク半蔵門（東京都） c 出 席 者：会員総数331名中287名（含委任状） d 議 長：会長 釜 和明 e 議事次第 (a)議決事項 第1号議案 定款の一部変更に関する件 第2号議案 令和3年度事業報告（案）に関する件 第3号議案 令和3年度収支決算（案）に関する件 第4号議案 令和4年度事業計画（案）に関する件 第5号議案 令和4年度収支予算（案）に関する件 第6号議案 役員の選任（案）に関する件 上記議案について審議し、原案のとおり了承された。														

事 項	実 施 状 況
	(b) 報告事項 ・役員及び参議の選任並びに参加の委嘱について (ウ) 第68回理事会 - a 開催日：令和4年6月24日 - b 場 所：ホテル グランドアーク半蔵門（東京都） - c 出席者：理事会構成人員36名中34名（含委任状） - d 議長：会長 釜 和明 - e 議事次第 (a) 議決事項 - 第1号議案 副会長、常務理事の指名に関する件 - 第2号議案 参加の委嘱に関する件 - 第3号議案 参議の選任（案）に関する件 上記議案について審議し、原案のとおり了承された。 (エ) 第69回理事会 - a 開催日：令和5年3月24日 - b 場 所：ホテル グランドアーク半蔵門（東京都） - c 出席者：理事会構成人員34名中33名（含委任状） - d 議長：会長 大橋 徹二 - e 議事次第 (a) 議決事項 - 第1号議案 令和5年度事業計画（案）に関する件 - 第2号議案 令和5年度収支予算（案）に関する件 上記議案について審議し、原案のとおり了承された。 イ 第44回参与会議 (ア) 開催日：令和5年2月22日 (イ) 場 所：AP西新宿（東京都） 集合形式及びWeb形式のハイブリッド形式で開催 (ウ) 座 長：赤松 明 氏 (エ) 次 第：令和4年度事業実績（第3四半期まで）について ウ ブロック別会議 中央協会と都道府県協会とが一体となり事業を推進していくため、事業全般の諸課題等について、中央協会と都道府県協会との意見交換や情報提供等を目的とした会議をWeb会議形式によりオンラインで開催した。 (ア) 北海道・東北及び東海・北陸合同ブロック 令和5年2月15日

事 項	実 施 状 況																	
	(イ) 関東・甲信越ブロック 令和5年2月2日 (ウ) 近畿及び九州合同ブロック 令和5年2月13日 (エ) 中国・四国ブロック 令和5年2月8日																	
3 都道府県協会職員研修の実施	協会職員の資質・能力の向上を図るため、次のとおり研修を実施した。 (ア) 開催日：令和5年2月14日 (イ)場 所：Web会議形式によりオンラインで開催 (ウ)内 容：アンガーマネジメント研修																	
4 デジタル化の推進	情報セキュリティ対策上必須となる、緊急性の高い次の事項等の対応を行った。 (ア) システムのライフサイクルに伴う機器の入れ替え（OSのサポート終了に伴う対応等） (イ) Eメールのセキュリティ対策強化																	
5 会長表彰等	職業能力の開発及び向上の促進を図り、技能者の意気高揚を促し技能尊重気運を醸成するため、「職業能力開発事業関係」、「技能検定事業関係」及び「技能振興事業関係」の事業所、団体及び功労者に対し会長表彰を行った。 被表彰者：206件（205件） <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th rowspan="2">職業能力 開発事業 関係</th><th colspan="2">技能検定事業関係</th><th rowspan="2">技能振興 事業関係</th></tr><tr><th>中 央</th><th>都道府県</th></tr><tr><td>事業所及び団体</td><td>3〔2〕</td><td>6〔3〕</td><td>18〔19〕</td><td>0〔0〕</td></tr><tr><td>功 労 者</td><td>24〔23〕</td><td>25〔24〕</td><td>117〔118〕</td><td>13〔16〕</td></tr></table>	区 分	職業能力 開発事業 関係	技能検定事業関係		技能振興 事業関係	中 央	都道府県	事業所及び団体	3〔2〕	6〔3〕	18〔19〕	0〔0〕	功 労 者	24〔23〕	25〔24〕	117〔118〕	13〔16〕
区 分	職業能力 開発事業 関係			技能検定事業関係			技能振興 事業関係											
		中 央	都道府県															
事業所及び団体	3〔2〕	6〔3〕	18〔19〕	0〔0〕														
功 労 者	24〔23〕	25〔24〕	117〔118〕	13〔16〕														
6 職業訓練生災害傷害保険制度の推進	職業訓練施設に在籍する訓練生の訓練中又は通校途中の傷害事故に対する保険制度を次のとおり実施した。 <table><tr><th>区 分</th><th>公 共</th><th>認 定</th><th>合 計</th></tr><tr><td>加 入 者</td><td>38,047名 〔40,394名〕</td><td>845名 〔712名〕</td><td>38,892名 〔41,106名〕</td></tr><tr><td>支給件数</td><td>768件〔754件〕 【0件〔0件〕】</td><td>12件〔7件〕 【0件〔0件〕】</td><td>780件〔761件〕 【0件〔0件〕】</td></tr></table> (注) 支給件数欄中の【 】内の数値は、死亡事故に係る支給件数で内数である。	区 分	公 共	認 定	合 計	加 入 者	38,047名 〔40,394名〕	845名 〔712名〕	38,892名 〔41,106名〕	支給件数	768件〔754件〕 【0件〔0件〕】	12件〔7件〕 【0件〔0件〕】	780件〔761件〕 【0件〔0件〕】					
区 分	公 共	認 定	合 計															
加 入 者	38,047名 〔40,394名〕	845名 〔712名〕	38,892名 〔41,106名〕															
支給件数	768件〔754件〕 【0件〔0件〕】	12件〔7件〕 【0件〔0件〕】	780件〔761件〕 【0件〔0件〕】															